

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	生きがい活動支援事業					事務事業コード	01809
部 名	健康づくり部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係	部課コード	040200

1. 事業概要

総合計画コード	2212			
事業年度	年度 ～ H	年度	事業類型	◎ソフト事業 ○ハード事業
法令等の義務付け	☐ 法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ☐ 義務と任意の両方を含んでいる事業 ☒ 任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務		<根拠法令等(法律、条例、要綱など)> 朝霞市老人クラブ補助金交付要綱、高齢者スポーツ大会補助金交付要綱、朝霞市老人クラブ連合会補助金交付要綱、朝霞市高齢者生きがい活動支援通所事業費補助金交付要綱	
めざす 目的成果	高齢者の方々が交流しふれあうことができるように、助成や環境の整備が図られている。			
事業内容	高齢者の生活が健全で豊かなものとなるよう、高齢者団体等に補助金を交付する。 対象となる老人クラブ等の申請に基づき補助金を交付し、個々の団体の運営を資金的にサポートする。			
事業手法	☐ 市の完全な直営 ☒ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☒ 市民等との協働 ☒ 補助金交付 ゲートボール場の除草を委託 老人クラブへの補助金交付[補助金名:地区老人クラブ育成補助金]			

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容			老人クラブ(28クラブ)への補助金の交付 老人クラブ連合会への補助金の交付 1団体 高齢者スポーツ大会への補助金の交付		ゲートボール場(2ヶ所)の土地の借上げ及び管理 ミニデイサービス実施団体への助成 3団体 高齢者地域交流室の管理 2ヶ所				
単位:千円			H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込		
投入コスト	a 事業費[イ]~[ホ]		11,493		11,477		11,938		
	財源内訳	[イ]国庫支出金							
		[ロ]県支出金	479		318		447		
		[ハ]地方債							
		[ニ]その他							
	[ホ]一般財源	11,014		11,159		11,491			
b 人件費		3,298		2,931		4,030			
総コスト(a 事業費 + b 人件費)		14,791		14,408		15,968			
投入労働量		常勤職員等(人工)		0.45 人		0.40 人		0.55 人	
		一般職非常勤職員等(時間)		0 時間		0 時間		0 時間	
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳		需用費 470千円 役務費 5千円 委託料 405千円 使用料及び賃借料 2,703千円(内訳:土地借上料2,605千円、自動体外式助細動器借上料88千円、諸借上料10千円) 負担金、補助及び交付金 8,355千円(内訳:管理組合負担金515千円、老人クラブ育成補助金2,062千円、高齢者スポーツ大会補助金360千円、老人クラブ連合会補助金450千円、生きがい活動支援通所事業費補助金4,968千円)							
指標名			単位	H28目標・計画	H29目標・計画	H30目標・計画	最終目標・計画		
				(H28実績見込)	(H29実績見込)	(H30実績見込)	目標年度		
活 動	①	ゲートボール場の借上げ管理	ヶ所	2 (2)	2 (—)	2 (—)	H	32 年度	
	②			()	(—)	(—)	H	年度	
成 果	①	高齢者スポーツ大会参加者数	人	550 (600)	550 (—)	550 (—)	H	32 年度	
	②	老人クラブ数	団体	28 (26)	28 (—)	28 (—)	H	32 年度	

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☐ A 必要性が高い	☒ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☐ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☒ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☐ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☒ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 高齢者人口が増加していく中で、高齢者の健康増進や介護予防・生きがい作りに積極的に行政が関与をしていく必要がある。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
	☒ 活動指標の目標を達成した ☐ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☐ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 補助を実施することで、老人クラブ活動事業を支援し、運営を資金的にサポートすることができた。 ゲートボール場の整備も充足しており、高齢者スポーツ大会の参加者も目標数に達している。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 高齢者の方々が交流を図れるよう助成や環境整備を図った。 参加と協働: 高齢者自身が積極的な交流を図れるよう、高齢者団体と協力を行った。 経営的な視点: 介護予防の支援の一つとして、様々な活動団体を適切に援助した。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☒ I 見直す余地がない	☐ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☐ その他 <説明> 高齢者の社会参加を促すためにも、高齢者団体等への補助金交付は必要であると考えられるため。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
今後の取組方針	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		☐ A 見直して継続 ☒ B 現状のまま継続		
	見直しの方向性	☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期: H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ その他 (実施時期: H 年度)		
方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)		高齢者の社会参加を促すためにも、高齢者団体等に補助金を継続して交付する。 対象となる老人クラブ等の申請に基づき補助金を交付し、個々の団体の運営を資金的に継続してサポートする。		